

# 明日から使える！初めての通所リハ実践研修会



開催日：令和5年5月14日（日）

会場：オンライン開催

参加者数：36名

## 研修認定委員会より

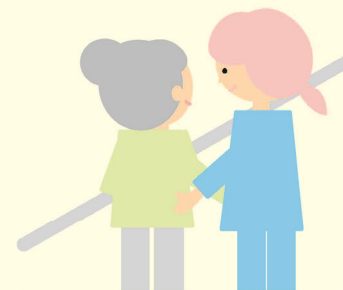
本研修会は、通所リハ事業所での経験が浅い方々を対象としており、通所リハについて理解を深めて頂けるよう企画しております。

研修内容は、講義にて通所リハに求められる機能・役割について理解を深めて頂き、各種加算の概要について、協会会員施設の取り組みを交えご紹介致しました。

また、グループワークを通して、自事業所や個人の課題について整理し、明日からの活動に活かせるようディスカッションが行われました。

明日から使える！

## 初めての通所リハ実践研修会



Web開催：ZOOM

本研修会は、通所リハビリテーション事業所での経験年数が少ないリハ専門職や相談員、管理者を対象に、介護保険における通所リハの役割・概論を学び、加えて自事業所ですぐに使える実践編として、会員事業所の取り組み例について、新規相談から加算要件算定に必要な書類や制度の解釈を中心に講義にて提供し、参加事業所の管理の質向上に寄与します。

開催日時 2023.5.14 Sun 9:30-16:00

参加定員

60名

参加費用

当協会会員 5,000円（税込）

非会員 10,000円（税込）

※ 経験年数は問いません。

※ 参加費用のお振込については、受講確認メールをご確認ください。

申込方法

- ・申し込みフォーム（QRコード）より必要事項をご入力いただくか、協会HPよりお申込みください。<https://day-care.jp/#kenshu-news>
- ・ご入力後、仮受付メールを返信します。メールが届かない場合にはお問い合わせください。
- ※ 携帯メール（@docomo.ne.jp等）へは、配信できない可能性がございます。
- ・仮受付メール配信後、一週間以内に受講番号を記載した受講確認メールを返信いたします。



申込期限

4月27日（木）

一般社団法人 全国デイ・ケア協会  
事務局／東京都千代田区神田榎町1-4千代田寿ビル3階  
TEL 03-5207-2710 FAX 03-5207-2711  
E-mail [kenshu@day-care.jp](mailto:kenshu@day-care.jp)

# 通所リハビリテーションの機能と提供内容

地域包括ケアシステムにおいて、訪問リハ機能を含めた地域や在宅生活を支えるリハビリテーション拠点としての役割を担うもの。

	通所リハビリテーションの機能	主な提供内容
①	<b>医学的管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当医と主治医の情報交換のもと、定期的な診察等による疾患管理。</li> <li>担当医の指示に基づく看護職の医療的処置等。</li> </ul>
②	<b>心身・生活活動の維持・向上</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師の指示に基づくPT・OT・STの専門的評価による、チームとして目標設定のもと実施する、生活機能（心身機能や生活活動）の各行為の維持・向上。</li> <li>自宅訪問等、当事者の日々の暮らしの把握。</li> </ul>
③	<b>社会活動の維持・向上</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調管理や運動指導等、活動の機会の確保</li> <li>他者との交流を通じた参加機会の確保による社会性の向上。</li> <li>暮らしに必要な知識・技術について専門職の立場から啓発。</li> </ul>
④	<b>介護者等家族支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス利用による介護者等の直接的負担軽減。</li> <li>本人の生活機能向上による介護負担の軽減。</li> <li>介護技術の向上や介護環境改善による介護者負担の軽減。</li> </ul>

- 医師・看護職・介護職・リハビリテーション専門職等の多職種協働によるチームアプローチ
- 医師の指示による医療対応や生活機能低下へのリハビリテーション専門職の対応、居宅訪問など多機能
- 上記専門的機能に加え、社会活動の維持・向上や介護者等の家族支援も併せて提供
- 多様なニーズに合わせて、短時間型から長時間型まで幅広い受け入れ体制で対応

# 地域から期待されるデイケア像

- **リハビリテーション機能**を充実させていること
- **リハビリテーションマネジメント**を推進していること
- 現行の各**加算**につながる**対応**をしていること
- **社会参加**を見据えて対応していること
- **科学的介護**を推進していること
- **質の高いサービス提供**を心掛けていること

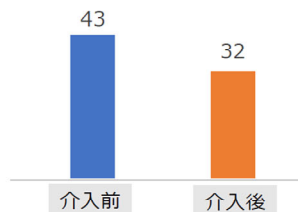
## 認知症短期集中リハビリテーション実施加算（事例）

認知症短期集中加算（I）

年齢：80代 性別：男性 基礎疾患：認知症  
Mini-Mental State Examination(MMSE)：5/30点

元自衛隊職員であり、退職後はカラオケや囲碁などを楽しみに生活される。自宅での物忘れが著明になり散歩して自宅に帰れなくなることがみられるようになった。たまに帰省する家族の認識が乏しくなったことから、家族の介護負担の軽減のため通所の利用となる。

認知症行動障害尺度(DBD)



個別

多職種での関わり

中・重度認知症

リハビリテーション会議にて通所リハでの対応方法を伝達することで、自宅内のBPSDにも改善がみられた

### 改善項目

- 日常的な物事に感心を示さない
- 特別な理由がないのに夜中起きだす
- 昼間寝てばかりいる
- やたらに歩き回る
- 世話されるのを拒否する

## グループワークの説明

### グループワークの内容

- **グループ内で本日の講義を振り返りつつ**

① **「自事業所の課題」や「個人の課題」について考えグループで共有する。**

※課題は地域の特性や個人の経験差もあります。さまざまな意見の共有が目的です。

② **課題に対し、明日からできる取り組みについて考える。**

※①で挙げた

**「共通の課題」や「個別の課題」**

**について具体的な取り組みにつながるよう考えましょう。**